

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.629

★臨時休校中の子どもたちへの読書推進(5頁)
★第74回「読書週間」ポスターイラスト募集(8頁)



「子どもの読書週間」によせて

子どもの力と全力で向きあう絵本 赤羽末吉生誕110年を迎えて

赤羽末吉研究者

あかぼしげの
赤羽茂乃

あるとき、赤羽末吉の描いた『ももたろう』のおじいさんとおばあさんの顔色について質問を受けた。ももたろうが鬼退治に行くと言いだしたとき、ふたりは心配している様子で、顔の色も土気色に描かれている。きび団子を作るおばあさんは白い顔に戻っているが、おじいさんはまだ土気色だ。ということは、女性の方がいざとなったら肝が据わっているということなのだろうか。赤羽末吉は、ももたろうを案じるふたりの気持ちの表現として、その時々で顔色を変えて描いたのだろうか、というものだった。

『かさじぞう』の地蔵の足元には不思議な影が描かれ、『てんぐぐだいこ』の屏風には鼻を低くされるのはごめんとばかりに逃げ出そうとしている天狗がいる。赤羽の絵本には不思議なもの、なんぞ？と首を傾げるようなもの、思わず笑ってしまうものなどがたくさん描きこまれている。反対に、『鬼のうで』『鬼の首や』『つるにようぼう』の鶴の行方など、その結末が描かれないものも多い。

読み手の子どものは、さりげなく描き込まれた愉快なところ、はてな？と思うことにいち早く気づき、笑い転げたり、不気味がったり、怖がったりする。また、描かれなかつた結末についても自分なりの想像力をもって、物語の行方を考えてみるのだ。

物語を膨らませるための細かな描き込みと、子どもたちが想像力を膨らませるために残された余地、赤羽絵本の魅力はそういうところにもある。赤羽は絵本を描くとき、子どもを見くびることなくさまざまな工夫を凝らしたが、それは子どもたちの理解する力を信じていたからこそだ。そうして描かれた赤羽絵本は、深いテキストの読みと緻密な考証に裏打ちされている。

子どもと本をつなぐみなさんへ

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、全国多くの小学校、中学校、高等学校が休校となっています。日常がぶつ切りと断ち切れ、新しい一歩を踏み出す門出の卒業式の中止・縮小、一年間ともに過ごしてきたクラスとの急な別れ、目標としていた大会や演奏会の中止、外遊びすら自粛を求められるなど、子どもたちの閉塞感、不安感は何ほどでしょう。

こんなときこそ、子どもたちに読書をすすめ、不安を乗り越える力、生きる力を身につけてほしい。ですが、地域によっては休館やサービスの縮小を余儀なくされる図書館もあります。おはなし会や作家とのワークショップなどのイベントも、全国各地でつぎつぎと中止・延期となっています。みなさんの負担も大きいのではないのでしょうか。

それでも、いつもどおり、子どもたちと本をつないでください。そして、いつも以上に、ひとり時間をもてあましている子ども、不安と不満のなかにいる子どもたちへ働きかけてください。子どもたちへどんな本を手渡したらよいかわからなくて困っている大人がいたら、相談にのってあげてください。本を直接貸し出したり、集まったのおはなし会がむずかしくても、みなさんがいま、子どもたちに読んでほしい本、子どもたちが笑顔になれる本の情報を届けてください。

ふだん、おはなし会やブックトークの対象としていない年齢の子どもたちへの働きかけの参考として、読書推進運動協議会では、この5年分の「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレットをホームページに公開しています。また、全国学校図書館協議会のホームページでは、これまでの「青少年読書感想文全国コンクール」課題図書や「よい絵本」「えほん50」などのブックリストを見ることができます。休館中やサービス縮小中の図書館での取組や、各地域での取組は、日本図書館協会のホームページや「うちどく.com」に順次掲載される予定です。

4月23日からはじまる「こどもの読書週間」の標語は「出会えたね。とびっきりの1冊に。」です。この長い春休みで出会った「とびっきりの1冊」を子どもたちが交換しあう、そんな週間になってほしいと、私たちは願っています。

2020年3月17日

公益社団法人 読書推進運動協議会

【参考サイト】

読書推進運動協議会 (<http://www.dokusyo.or.jp/>)

=過去5年分の「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット

全国学校図書館協議会 (<https://www.j-sla.or.jp/>)

=「青少年読書感想文全国コンクール」など各種課題図書と「よい絵本」「えほん50」

ほかブックリスト

日本図書館協会 (<https://www.jla.or.jp/>) =全国の図書館から寄せられた取組情報

うちどく.com (<http://uchidoku.com/>) =全国各地域の取組情報



公益社団法人 読書推進運動協議会、3月17日よりホームページ上に上記のメッセージ「子どもと本をつなぐみなさんへ」と、過去5年分の「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレットデータを掲載しております。

3月31日現在、新型コロナウイルスをめぐる状況は刻々と変わり、休館となる図書館も増え、学校の休校措置も解除されるのかもしれませんが不透明な状態です。今年の「こどもの読書週間」はイベント開催はむずかしいですが、みなさんがこれまでに培ってきた経験から、こんなときこそ子どもたちに読んでほしい本、家族で読んで笑顔になつてほしい本、普段はなかなか読めない読み応えのある本などの情報を、ホームページや自治体の広報、生徒への配布物で積極的に発信していきましょう。

公益社団法人 読書推進運動協議会では、2020年の「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレットの追加ご希望を承ります。図書館、書店、休館中に生徒に配布をご希望の中学校・高等学校・大学はご検討ください。

●読書推進運動協議会 事務局
info@dokusyo.or.jp

Fax 03-15244-5271

●「2020上野の森親子ブックフェスタ」中止のお知らせ

5月3日(祝)5日(祝)、東京都台東区の上野公園を中心としたエリアで行われる予定でした、絵本・児童書のイベント「上野の森親子ブックフェスタ2020」は残念ながら開催を中止することとなりました。

主催3団体(子どもの読書推進会議・日本児童図書出版協会・一般財団法人 出版文化産業振興財団)では、新型コロナウイルス感染症の拡大が続くなかで、来場者・関係者のみなさまの健康と安全を確保しつつ大規模イベントを開催することは困難と判断し、中止を決定しました。

今年はブックフェスタ誕生のきっかけとなった「子ども読書年」制定から20周年ということで、恒例の本の謝恩価格販売に加え、人気作家の講演会やワークショップなどのイベントを例年以上に充実させて準備を進めていただけに、主催者としてもたいへん残念です。

来場を予定されていたみなさまには、また来年の開催を楽しみにお待ちしておりますようお願いいたします。

「第31回 読書感想画中央コンクール」

読書の感想を描くプロセスを
紹介する「作画感想」に注目！

1月31日(金)、「第31回 読書感想画中央コンクール」(主催：全国学校図書協議会／毎日新聞社ほか)の中央審査会が開催された。今回の参加校数は5832校、応募作品は66万5068点。中央審査会では各都道府県代表の35点から、文部科学大臣賞4名、優秀賞8名、優良賞16名、佳作4名が選ばれた。

本紙面で例年紹介している表彰式は、2月28日(金)に予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、残念ながら開催中止となった。

このコンクールでは、絵だけではなく、同時に提出される「作画感想」も選考対象として重要視されている。今回の文部科学大臣賞受賞作と作画感想を紹介しします。

【第31回 読書感想画中央コンクール 文部科学大臣賞(4名)】

○小学校低学年の部

「大さかじょうをたてる」中野天晴さん(大阪市立市岡小学校1年)・対象図書『たてる…こうじのえほん』(福音館書店)



「大さかじょうをたてる」中野天晴さん

このえんの中では、ジジー、パンパン、ゴゴゴゴという音がなるなかで、大さかじょうが、ひかりをつけた。このえんの中では、ジジー、パンパン、ゴゴゴゴという音がなるなかで、大さかじょうが、ひかりをつけた。

・作画感想

ぼくは、「たてる」をよんで、大さかじょうをたてるえがかきたいとおもいました。たくさんの人と、たくさんのお車をかくのにくろうしました。人はむかしのたてかたで、大さかじょうをつくらせています。車はいまのつくりかたです。

こうじにじかんがかかって、よるになってしまいました。だから大さかじょうに、ひかりをつけた。このえんの中では、ジジー、パンパン、ゴゴゴゴという音がなるなかで、大さかじょうが、ひかりをつけた。

このえんの中では、ジジー、パンパン、ゴゴゴゴという音がなるなかで、大さかじょうが、ひかりをつけた。

○小学校高学年の部
「ぼくの本の王国」長谷川友信さん(宮城県北上市立黒沢尻西小学校5年)

対象図書『モノ・ジョーンズとからくり本屋』(フレーベル館)

・作画感想

からくり本屋は、ドアの向こうでたくさんのお部屋が入れ替わる回転書架です。ぼくは、いろいろな部屋がほしかないと考えて、描きました。本棚には虫の本、怪人二十面相やルパンの本を置いて、ずつと本を読んでいます。本に夢中で、ぼくは周りには気づいていません。ハンモックでねたりしながら、この部屋でゆつくりしたいです。モノも、一つひとつの部屋になつていきます。



「ぼくの本の王国」長谷川友信さん

もう少しゆつくりいられるともっといいのと思っていました。

○中学校の部

「輝く 海風」福岡紀子さん(愛媛県喜多郡内子町立内子中学校1年)

対象図書『南西の風や強く』(あすなろ書房)

・作画感想

一番に描きたかったのは、鎌倉の光り輝く海です。ふるさとの海に見守られ、三人は成長していきます。私には、この海のように、多朗と伊吹の友情がまぶしく感じられました。光と対峙するような夜の海岸や星月夜天神での秘密の冒険も、とても印象的でした。最後に、「それどころではない」現実に希望を抱かせてくれたのも、やはりふるさとの海から吹く風です。大人になった伊吹たちを見てみたくて、左下に二十歳のページを入れました。



「輝く 海風」福岡紀子さん

「ノーレイン・ノーレインボウ」田中ももさん



○高等学校の部

「ノーレイン・ノーレインボウ」田中ももさん(愛媛県立今治工業高等学校2年)

対象図書『マレスケの虹』(小峰書店)

・作画感想

新聞や手紙、兄からの最新のメッセージを礎にしマレスケが自分のやるべき事を見つけ、一歩を踏み出す様子が強く印象に残った。自分の力ではどうしようもない物事に黙って従うのか。人間は等しく自由であるべきだと思いに共感し、文化の違いや固定観念に縛られない様子を自分の裸足で表現した。『雨が降らなかつたら、虹だって出ない。』兄が降らせてくれた雨が上がった。自分の役目は、この雨上がりの空に虹をかけることなのだ。(作画感想の表記は原文のままとしています)

■ちひろ美術館・東京

瀬川康男 没後10年 赤羽末吉 生誕110年の記念展示開催

東京都練馬区のちひろ美術館・東京では、3月1日より「没後10年」瀬川康男 坦雲亭日乗一絵と物語の間(あわい)」が開催されている。

この展示では、『いないいないばあ』で知られる瀬川康男が1982年に長野県に転居し、「坦雲亭」と名づけた古い家での生活を記した日記『坦雲亭日乗』やノートにつづられたことばを手がかりに、絵本原画、タブロー、スケッチなど約80点を展示する。愛犬や友人たち、近隣の子どもたちとの交流から生まれた『ぼうし』『だれかがよんだ』など、温かいまなざしで描かれた自作絵



瀬川康男『絵巻平家物語(三) 文鏡(ぼるぶ出版)より 1986年 個人蔵

本。膨大な資料と取材をもとに、緻密な構想を重ねた、壮大な絵本『絵巻平家物語(一)〜(九)』。植物の写生をくり返し、いのちの「基本の形が見えてくる。白昼夢の形であるあの無限に変化してやまない細胞の原型。これが世界の基本形」(『坦雲亭日乗』より)の境地に行きついた瀬川が描いたタブローを鑑賞できる。坦雲亭のアトリエを再現したコーナーには、一気呵成に早描きした不動明王像や観音像も展示されている。会期は6月21日(予定)まで。同時開催は「いわさきちひろ 子どもの催しあわせー12年の軌跡」。

また同館は瀬川康男展に続いて、6月26日〜9月22日(予定)には、「生誕110年 赤羽末吉展 絵本への一本道」を開催する。同時開催は「ちひろの花鳥風月」。

日本で最初の国際アンデルセン賞画家賞受賞者である赤羽末吉の人生は、明治末から平成のはじめまでの、日本の絵本が芽生え大きく花開いていった時代と重なる。そんな時代の中で赤羽末吉がた



瀬川康男『ぼうし』(福音館書店)より 1983年 ちひろ美術館蔵

どった絵本作家への道を、『かさじぞう』『スーホの白い馬』など絵本の原画やスケッチ、数々の資料からひも解く。本紙巻頭で赤羽茂乃さんが語った、赤羽末吉の人生と絵本の魅力の重なりあいを確かめることができる。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ちひろ美術館・東京は3月31日現在、当面の間、臨時休館すると発表している。展示会期が変更される可能性もあるので、再開館の予定なども含め、「来館をお考えの方はかならず、公式ホームページで最新情報をご確認ください」と、同館は呼びかけている。

●ちひろ美術館・東京 公式ホームページ
<https://chihiro.jp/tokyo>

『読書推進運動』629号別冊 『第72回 読書週間 行事報告一覧』について

『読書推進運動』別冊「2019 第73回 読書週間 行事報告一覧」がまとまりました。

場合もある。小学校中学年・高学年が参加することが多い。

●ぬいぐるみのお泊まり会
全国からたいへん多くのご報告をいただきましたため、紙面に余裕がなくなり、多くの図書館で行われた一部の行事の内容を、残念ながら割愛しております。以下に、内容を割愛した行事と内容説明をご紹介します。

●一日司書/図書館の仕事体験
図書館の概要や利用方法の説明後、館内を見学し、カウンター業務や書架の整理などを体験する。参加者が読み聞かせの実演をする。

●ぬいぐるみのお泊まり会
図書館で開催されるおはなし会に、ぬいぐるみ持参で参加。おはなし会終了後、図書館にぬいぐるみが「宿泊」する。夜の図書館でのぬいぐるみの様子(館内探検、書架整理、おはなし会など)を撮影し、写真やアルバムをぬいぐるみを迎えにきた子どもへ進呈「ぬいぐるみが気に入った本」「ぬいぐるみがおすすめる本」を同時に貸し出すこともある。



2019年の「読書週間」では、「しおり」にちなみだ行事もたくさん行われました

■いまこそ、「子どもたちへ」とびっぴりの1冊」を！

臨時休校中の子どもたちに読書のすすめ — 図書無料宅配や「家読」に取り組んだ公共図書館の志

家読推進プロジェクト代表 佐川 二亮

2020年2月27日、政府は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月2日から春休みまで全国小中学校と特別支援学校に臨時休校を要請した。翌28日、感染拡大が深刻な状況を迎えた北海道では「新型コロナウイルス緊急事態宣言」が発表され、道民の週末外出自粛が呼びかけられた。

臨時休校中の児童・生徒と乳幼児の読書環境を整えることが目的で、どんな本を読んでもいいのかわからない、という子どもや保護者には職員がていねいにアドバイザー。年齢や希望にあわせたセットも用意。貸出はひとり10冊までで期間は2週間。配送と返却は図書館の公用車に対応。3月24日までに74件57冊の申し込みがあった。

●無料宅配に取り組んだ図書館

突然の一斉休校は子どもたちと保護者、学校や自治体に大混乱を招いた。家に閉じこめられた子どもたちは目を追うごとに学習への不安や生活リズムの変化でストレスを抱え、さらに一日の多くの時間がゲームやスマホなどに費やされ、家族の不安も高まる一方である。

南幌町生涯学習センター図書室 南幌町生涯学習センター図書室 南幌町生涯学習センター図書室

そんな子どもたちや家族に読書のすすめを」と行動を起こした公共図書館や地域のこども園がある。とくに緊急事態宣言下の北海道の図書館は敏感な動きをみせた。

【上】北海道：羅臼町教育委員会・羅臼町図書館「こんな時だからこそ 君たちの心と体を守りたい」チラシ

【下】福島県：平田村立小平こども園「お出かけできない今だからこそ！ 家族でうちどく宣言！」チラシ



【上】北海道：羅臼町教育委員会・羅臼町図書館「こんな時だからこそ 君たちの心と体を守りたい」チラシ
【下】福島県：平田村立小平こども園「お出かけできない今だからこそ！ 家族でうちどく宣言！」チラシ



●「今だからこそ「家読」のすすめ」
休校中の子どもたちと家族への読書提案として「家読のすすめ」に取り組んだ事例も紹介したい。ツルの渡来地として知られる鹿兒島県出水市教育委員会は、「こ

んなときだからこそ つるのしんといつしよに☆レッツトライ！心と体と頭の体そう」事業に取り組み、「家読推薦図書150冊」リストを作成し、「家読(うちどく)五・七五&家読ポップ」募集に臨む。関東では足立区立江北図書館が「うちどくしよう」と、Face bookで発信(3月7日~31日)。川崎市有馬・野川生涯学習支援施設アリーナ地域図書室では、館内に「家読コーナー」を設置して、ホームページで「家読のすすめ」をアピールしている。

以上はいずれも北海道内の図書館(室)の事例であるが、それぞれの図書館のホームページで選書し、電話やFAX・メールなどで申し込む。貸出本は事前と事後にアルコールで消毒。各館の非常時宅配無料サービスはたいへん好評だったようだ。

「家読」を重要な保育活動方針にしている福島県平田村立小平こども園(1歳~5歳まで54人)では、家庭でもゲームやメディアに頼らない、「お出かけできない今だからこそ！「家族でうちどく宣言！」」を3月11日に発表し、家族で読書を楽しむ提案をした。東日本大震災のときに、絵本や読書が子どもたちの心を癒し、生きる力や希望を支える大きな力になったことを私たちは知っている。3月末には東京都をはじめ、多くの県が週末外出自粛要請を發した。この危機的状況に子どもと家族の豊かな過ごし方として政府もこの際、「家読」のすすめを考

●全国家読情報「うちどく.com」http://uchidoku.com/
*この稿で紹介した各取組情報は2020年3月31日現在のものです。

優良読書グループの歩み (4)

2019年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

読み聞かせボランティア アネットワーク 「おはなしの木」

代表者 小川 千恵
青森県むつ市
青森県読書推進運動協議会

2003年度文部科学省補助事業「読みかせボランティア養成講座」の受講生を中心に結成し、2005年に正式に発足いたしました。むつ市立図書館を拠点に、個人会員13名・団体2という組織で毎月1回土曜午後の定例会で活動内容を話あっています。

おもな活動内容は、図書館での「土曜おはなし会」で、他団体と輪番で20分ほど「おはなしのこべや」で月1〜2回担当しています。また、「はるの日のおはなし会」「あきの日のおはなし会」「ふゆの日のおはなし会」は50分ほどで、参加者も2歳ぐらいから小学生、大人と幅広いので、プログラム構

(順不同)

成はもちろんのこと、進行の仕方でもクイズ形式で参加型にするなど、毎回工夫しています。当日に向けての選書や、リハーサルでのメンバーからのダメだしがいちばん勉強になるし、楽しい時間です。また、小学校に向向いてのおはなし会では、学童保育や朝読の時間などがあります。図書館に来ない子どもたちにも、おはなしの世界の楽しみを届けられるので、依頼があるのはほんとうにうれしいことです。また、10か月や3歳児健診、離乳食教室などにも出向き、絵本の紹介などしています。子育てのはじめの時期に「絵本」の魅力をパパ、ママが感じて、お膝にだっこで絵本がある子育てが大きな力になることを実感してほしいと願っています。

そして自慢の特徴的な活動として「下北の昔話・大型手づくり紙芝居」があります。題材を探し、脚本を作り、絵を描きの作業を毎年やって、9作品の財産ができ、幼稚園などの団体に貸し出して

います。活動をとおしていちばんの喜びは、「おはなし会」での子どもたちの輝く瞳と笑顔に出会えることです。子どもはみんなおはなしが大好きです。とくに乳幼児期は、パパやママの肉声がなにより心を育てます。親子の絆を深めます。そして、好きな絵本がひとつでもあればなにかつらいことがあったときの癒しや助けになることもあります。そんな絵本などおはなしの世界の楽しみを子どもたちに届けるために、私たち自身も楽しみながら仲間とともに研鑽を重ね、少しでも長く続けていけたらと思っています。

ます。

活動をとおしていちばんの喜び

は、「おはなし会」での子どもた

ちの輝く瞳と笑顔に出会えるこ

です。子どもはみんなおはなしが

大好きです。とくに乳幼児期は、

パパやママの肉声がなにより心を

育てます。親子の絆を深めます。

そして、好きな絵本がひとつでも

あればなにかつらいことがあつた

ときの癒しや助けになることもあ

ります。

そんな絵本などおはなしの世界

の楽しみを子どもたちに届けるた

めに、私たち自身も楽しみながら

仲間とともに研鑽を重ね、少しで

も長く続けていけたらと思ってい

ます。



子どもたちの笑顔あふれる「おはなし会」

ブックランド古志

代表者 藤原 廣子
島根県出雲市
島根県読書推進運動協議会

(推薦)

1984年、夏休みの思い出に掛合町で家庭文庫を開いたところ、反響を呼び、小学校、保護者、地域の協力を得て子ども読書会「えんがわ文庫」をスタートさせ、1991年までの6年間取り組んだ。

退職後、古志町に住むことになり、県立図書館の勧めや古志公民館のご協力があつて、小学生を中心にした子ども読書会「ブックランド古志」を立ちあげた。子ども読書会の活動方針は一貫して仲間と本に出会う楽しみを、それに基づいて「テーマ図書」「関連活動」「絵本の読み聞かせ」という3つの柱を立てている。

「テーマ図書」では、毎月、県立図書館の読書会用図書を各自1冊ずつ家に持ち帰り、1か月間読み温め、翌月持ちよつて考えたことを話しあう。

「関連活動」では、子どもたちが自発的に年間計画を立てて、さま



子どもたちが作った手づくり絵本は宝物

ざまな活動を行う。活動内容によつては高学年の子どもが中心となつて、企画、運営も行う。たとえば、絵本作りでは世界に1冊しかない宝物となる絵本を作る。また、母の会主催で行う島根県立青少年の家サンレイクへの宿泊体験は、心に残る唯一無二の活動だ。「絵本の読み聞かせ」では、かつては中学生になつてもブックランド古志の活動を続けたいという生徒が読んでくれていたが、3年前から「読みメン」といつて、児童のお父さんに読んでもらつている。年1回文集を発行しているが、その一節に、「大好きな本を読むことによつて、人の痛みを感じ、何事に対しても素直にできる心の

豊かさを「持ち続けたい」と綴られている。

5周年、10周年、20周年には絵本作家の講演会、記念誌の発行などを行った。来年は30周年記念事業を計画している。

ブックランド古志で育った子どもが親となり、会のスタッフになったり、彼らの子どもが参加したりすることもある。会のスタッフは、出雲市のブックスタート、地元小学校、幼稚園、児童クラブへ読み聞かせに行っている。

読書体験をとおして勇気をもたらしたり、挑戦してみようという一歩前進したりして、いろいろなことを知り、学んでいく。そして、目に見えないものを身につけていく子どもたちの姿に、私たちは読書活動にかかわってきたことを誇りに思う。

今後も地域の子どもとともに、細く長く活動を続けていきたい。

ふくぎのくる

代表者 新垣 希
沖縄県島尻郡久米島町

（推薦）
沖縄県読書推進運動協議会

読みかせサークル「ふくぎのくる」は、久米島町立美崎幼稚園・小学校の各クラスで朝の読み聞かせをしていた保護者が集まり結成されました。2002年度から定期的に読み聞かせ会を行うようになり、2013年度からは社会福祉協議会「赤い羽根事業」の助成を受け活動しています。

現在、年間をとおして活動しているのは4名。町内の保育園・幼稚園・小学校子育て支援センターやイベントで、絵本・紙芝居・ペーパーアート・人形劇など手作りのものも組みあわせた読みかせ会

を行っています。その際は学校や関係団体の受け入れ先と連携を図り、相手の要望もしつかり受け入れ、おたがいが気持ちよく活動できるように心がけています。

多くの方に関心をもってもらえるよう、絵本の紹介や活動の様子など情報発信をするため、「絵本の森だより」発行と、毎週1回地域のラジオ番組出演にも取り組んでいます。大人の方の関心も高く、数年前からは保護者向け絵本ワークも行っています。

少人数で調整しながら活動を続けるのはいへんですが、最近はいイベントごとにもさまざまな人に声をかけ、無理なく参加してもらうことで、新たな人との繋がりができるなど、うれしい変化もあります。楽しい読み聞かせ会を作りあげようと試行錯誤するなかで、子どもたちのドキドキ・ハラハラした表情や笑顔に励まされ、一緒におはなしの世界を味わえる充実感が、喜びや活力になっています。

久米島では公立図書館の開館が予定されています。今後そのような施設を活用して幼児・大人への読み聞かせ、中高校生向けブックトークなどのプログラム実施や乳幼児向けのブックスタートなどに

取り組むことで、保護者の方が生活のなかで気軽に本を取り入れるようなきっかけ作りをしたいと思いい、サークルとしても子育て支援につながる学びの機会を増やしたいと考えています。



町内各施設それぞれにあわせて読み聞かせ

みなさまへ
事務局からのお願い
2020年4月1日現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止として、政府および東京都の要請により、自宅勤務や業務時間の短縮などの措置が求められています。また、今後の推移によっては、通勤を含む移動に制限が課せられる可能性もあります。

公益社団法人 読書推進運動協議会事務局でも、4月3日より当面のあいだ、自宅勤務と局員の交代出勤を取り入れております。滞りなく業務を進めるよう、事務局では鋭意努めますが、発行物の刊行日、各種お問い合わせへの対応などが遅れる可能性がありますこと、ご理解くださいますようお願い申し上げます。



絵本と子どもが好きという思いで活動を継続してきたことで、最近成長した子どもたちに声をかけてもらう機会も増え、長く続けてきたからこそ得られる喜びがあります。子どもたちにとって、安心できる地域の大人であることをとてもうれしく感じており、これからも本の世界を楽しむ活動をおして信頼される存在であり続けたいと、考えています。

日本図書普及財団

贈りものに。お礼、お返しに。

東山魁夷シリーズ
1,000円・3,000円・5,000円 10,000円

読書NEXT

2020・第74回 読書週間

ポスターイラスト募集

標語は「ラストページまで駆け抜けて」



2016年
吉川ケイタ さん



2018年
さとうみすず さん



2017年
有賀千華 さん



2019年
富山涼太 さん

- 秋の「読書週間」のシンボル、ポスターのイラストを募集します。ポスターイラストを使ったPR広告も、各種雑誌に掲載予定です。
- 賞
- ・大賞（1名）……賞状と賞金10万円
 - ・優秀賞（3名）……賞状と賞金1万円
 - ・入選（10名前後）……記念品（図書カード）
- 応募要項
- ①標語「ラストページまで駆け抜けて」をイメージした未発表の創作原画 *「読書週間」などの文字情報は作品に入れないこと
 - ②サイズ B4判、タテ
 - ③用紙・画材 自由
 - ④CG作品はプリントアウトしたもの
 - ⑤カラー、モノクロとも可。立体

- ⑥応募資格 高校生以上。合作は可だが、応募はひとり1点
- ⑦ハガキ大の用紙に以下を明記し、作品の裏面に添付のこと
氏名、郵便番号、住所、電話番号、年齢、職業、メールアドレス（任意）
- ⑧応募締切 6月25日（木）必着
- ⑨送り先・問い合わせ先
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル6階
- 公益社団法人読書推進運動協議会「読書週間ポスターイラスト」係
TEL 03-5244-5270
- ⑩発表 8月上旬、入賞者に通知
- ⑪入賞作の二次使用権は公益社団法人読書推進運動協議会に帰属
- ⑫作品は返却しません。返却希望の方はその旨を明記し、手数料として切手500円分を同封すること。

事務局報告（3月）

- ・5日 出版クラブビル「新型コロナウイルス対策会議」に出席
- ☆6日 「こどもの読書週間」趣旨書 責了
- ☆6日 機関紙「読書推進運動」628号 入稿・責了
- ☆12日 「こどもの読書週間」ポスター出来。全国の読書推進運動協議会・書店・学校図書館に送付
- ・12日 楽天ブックスネットワーク、楽天ペイメントと「上野の森親子ブックフェスタ2020」キャッシュレス決済導入につき打ち合わせ
- ☆13日 機関紙「読書推進運動」628号 出来
- ☆13日 杉浦康平事務所へ「こどもの読書週間」ポスターお届け
- ☆16日 講談社社長室と2020年度の運営について打ち合わせ
- ☆16日 ホームページに過去5年分の「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレットを再掲載
- ・16日 「2020年度「伊藤忠記念財団子ども文庫助成事業」応募要項を各道府県読書協などに送付
- ・16日 とうたかずひこさんと「子ども読書の日」ポスターについて打ち合わせ
- ・19日 「2020年度「第1回 常務理事会」の開催案内を送付
- ・23日 令和2年度「子供の読書活動の推進」発達段階に応じた読書活動の推進 事業審査表を文部科学省に提出
- ・24日 「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会に出席

編集部 & 事務局のひとこと

●この「読書推進運動」の編集作業の中心を任されて10数年。この629号ほど、ちゃんと言葉でできるの不安になった号はありませぬ。その不安は、この「ひとこと」を書いている4月6日現在もまだ続いているどころか、ますます大きくなっています。

●まず、ご紹介しようと考えていた行事がほとんど、中止・延期となりました。さらに、事態が刻々と変わります。紙面を作りつつ、みなさんの手に届くときに、記事内容がそのときの状況からかけ離れたものとなつたらどうしよう。そのためにご協力いただいた方々に迷惑をかけてしまつたら……。なので、記事によつては、執筆した日付を入れることにしました。ささやかな紙面ですが、この新型コロナウイルス感染症が広まるなか、翻弄される姿をありのまま残すことが、定期刊行物としてあるべき姿かと考えました。

●アナログな職場環境ですが、4月3日より当事務局スタッフは原則在宅勤務となっております。数日ごとのメールチェックや、セキュリティの関係上事務局でないとできない作業以外は、自宅で仕事です。私の場合、「読書推進運動」の原稿書き、「全国読書グループ総覧」の校正が中心となります。次の630号出来への不安、お問い合わせへの返信が遅れてご迷惑をかける申し訳なさなどに押しつぶされそうですが、全国1万2364の読書グループの存在を励みに乗り切つていこう、と自分に言い聞かせています。

(伸)